

りんご栽培情報 第6号

令和7年8月21日
J A ア ル プ ス
富山県富山農林振興センター

1 概況

園芸研究所果樹研究センターの調査では、8月18日（満開116日後）の「ふじ」の果実横径は、72.7mm（前年比92、平年比99で、前年より小さく平年並で推移しています）。

2 病害虫防除

今後、高温・乾燥が続くとハダニ類が多発しやすくなります。発生が見られる場合、8月は、コロマイト水和剤（2,000倍、収穫前日まで、年間1回）で、9月の早生品種収穫後は、オマイト水和剤（750倍、収穫3日前まで、年間1回）で早めに単剤で防除してください。

一部園地では、褐斑病り病葉（写真1、2）が発生しています。今後、褐斑病が広がりやすい時期となることから、主枝上の徒長枝（写真3）を整理するなど、薬液を掛かりやすくしたうえ、防除を実施してください。

成木基準

（散布量：500L／10a）

回	時 期	対象病害虫	使用農薬	使用時期 （※1）	希釈倍率	100L 当たり 必要 薬剤量
16	9月初旬 （前回防除の 10日後頃）	褐斑病、すす点病、 すす斑病 ケムシ類、シンクイムシ類 （展着剤）	トップジンM水和剤	収穫前日まで	1,500倍	66 g
			サムコルフロアブル10 マイリノー	収穫前日まで	5,000倍 20,000倍	20 mL 5 mL
17	9月中旬 （前回防除の 14日後頃）	斑点落葉病、褐斑病、 すす点病、すす斑病 （展着剤）	ストライド顆粒水和剤 マイリノー	収穫前日まで	1,500 倍 20,000 倍	66 g 5 mL
18	10月初旬 （前回防除の 14日後頃）	斑点落葉病、褐斑病、 すす点病、すす斑病 （展着剤）	ベフラン液剤25	収穫前日まで	1,500倍	66 mL
			マイリノー		20,000倍	5 mL

※1：収穫前日数の「収穫前日まで」は、散布終了後から収穫まで、24時間の経過が必要となる。

※：カメムシ類の発生が見られたら、**バリード顆粒水和剤**（2,000倍、収穫前日まで、年間3回以内）または**スタークル顆粒水溶剤**（2,000倍、収穫前日まで、年間3回以内）を散布する。

●農薬散布の際は、濃度や対象病害虫など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。
また、周辺の他の作物や住宅等に薬剤が飛散しないよう十分注意してください。



写真1 褐斑病り病葉
（初期病斑）



写真2 褐斑病り病葉
（病斑進展）



写真3 主枝上の徒長枝

3 台風等の強風対策

今後、台風等強風被害の発生しやすい時期となります。被害を軽減するため、台風の接近前および通過後に、以下の点に留意して対策を実施してください。

(1) 骨格枝等の支柱入れ

「りんご栽培情報 第5号」の「4 (2) 支柱入れ・枝つり」を参照

(2) 事前点検・通過後点検

- ア 支柱・結束縄の点検：若木等の支柱や結束縄の点検・補強
- イ 防風施設の点検：支柱やネット等の点検・補強
- ウ 排水路等の点検：明きょ、暗きょ等排水路の点検・手直し

(3) 被害が発生した場合の事後対策

- ア 傷口の保護：枝折れ等の傷口はきれいに切り直し、**トップジンMペースト**（使用回数：年間3回以内）等を塗布する。
- イ 樹体の回復：倒伏した樹体は、根の損傷をきれいに切り直し、**トップジンMペースト**等を塗布した後、樹体を引き起こして支柱入れ、根回りのかん水を実施する。
- ウ 褐斑病等の感染防止：長時間の強風や大雨があった場合、すみやか（1～2日後）に**トップジンM水和剤**（1,500倍 収穫前日まで、年間6回以内）を散布する。

【注意事項】

- ・強風が吹いている間や、河川・用水が増水している間は、大変危険なので、決して園地の状況等を見に行かないでください。
- ・落果果実のうち炭そ病り病果は、放置すると新たな感染源となるので、園地外に持ち出して適切に処分してください。
- ・例年、早生品種・中生品種に収穫前落果が多い園では、落果防止剤（「りんご栽培情報 第5号」の「3 収穫前落下防止対策」を参照）を使用してください。特に、夏季が高温・乾燥の場合は、収穫前落果が多くなる傾向なので注意してください。

4 着色管理

(1) 支柱入れ・枝つり

果実の重みで枝が下がっている場所では、樹冠内部まで光の到達性を良好にし、着色向上を図るため、着色する前に支柱入れ・枝つりを行ってください。

(2) 葉摘み・玉回し

着色ムラをなくし、果実の外観をよくする大切な作業です。葉摘みは、収穫時期の早い品種から順次行い、収穫までに2回に分けて行ってください。

なお、気温が高く着色が遅れている場合は、玉回しを優先し、葉摘みを遅らせてください。

ただし、「秋映」や「紅玉」など、軸の短い品種は落果しやすいので玉回しは行なわないでください。

【1回目の葉摘み】

1回目は、着色が始まった頃（表1）に、果実に付着する葉を2～3枚摘む程度とする。

【2回目の葉摘み・玉回し】

2回目は、陽光面が70～80%程度着色した頃に1回目よりも強めに摘み、併せて、玉回しも行う。

表1 1回目の葉摘み開始時期

品種名	葉摘み開始時期
つがる	8月20日頃
秋映	9月15日頃
こうたろう	9月20日頃
陽光	9月25日頃
ふじ	10月初旬頃

5 早生品種の収穫

収穫期が高温の場合、着色が遅れますが、着色を待つて収穫すると取り遅れにつながります。必ず糖度や酸の抜け具合、食感等の食味を確認し、適期収穫に努めてください。

- 農作業に当たっては、こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。
- 脚立での作業や、農業機械での作業時等の作業安全対策を徹底し、農作業事故発生防止に十分努めてください。